



# むさしだい

学校だより1月号  
平成29年1月10日  
中野区立武蔵台小学校  
校長 戸崎 晃

明けましておめでとうございます

今年もよろしく願いいたします

本校は今年60年目を迎え、11月18日に周年記念式典・祝賀会を行います。学校という場を中心として地域の皆様のつながりを深め、より一層、学校・保護者・地域が一体となって子供の健やかな成長を実現する教育活動を推進していきたいと考えております。

子供一人一人の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むため、今後とも皆様のご理解ご支援をよろしく願いいたします。

中野区立武蔵台小学校  
教職員一同



## 人と人との間

～立川晴の輔師匠の講演から～

校長 戸崎 晃

昨年暮れ、12月16日に若宮小学校の研究発表会に参加しました。国語の説明的文章の読解を通して表現力を高める研究でした。公開授業と研究内容発表の後、講演会がありました。講師に驚きました。落語立川流立川志の輔一門・立川晴の輔師匠でした。「修行から学ぶ」という演題でお話してくださいました。師匠である立川志の輔師匠の弟子になったときのことや修行の様子などの他、落語も聞かせていただきました。当然のことかもしれませんが、やはりプロの噺家は人を惹きつける魅力・技術がすごく、その表現力について、子供たちの教育

に生かせるものをなんとかして見出そうと聞いていたところ、落語でも漫才でもお笑いでも、一流とそうでない者、売れている者とそうでない者の話・意識には大きな違いがあるというお話がありました。

それは、「間(ま)」でした。

様々な話を聞きながら私は、「間」とは、人と人との距離でもあり、相手を理解すること・相手の様子を察することによって生まれ、円滑なコミュニケーションを図るものであると考えました。日本には、「人」という言葉と「人間」という言葉があります。「人間社会」とは言いますが、「人社会」とは言いません。ここにも、「間」は人と人とのかわりであることが表されているように思います。

さて、私が、私と子供たちの「間」として大切にしているものの一つに全校朝会があります。全校の子供たちの前で話すとき、挨拶の後すぐに話さないでしっかりみんなを見て様子を感じ、子供の視線・意識を集めてから話します。また、話しているときは間を取ることを大切にしています。間の取り方について、第3・4学年の国語の指導事項には次のようにあります。

話し手にとっての間とは、発音・発声のための息継ぎであると同時に、自らが伝えたい内容を聞き手に理解してもらうために意図的にとる構文や語句の上での間でもある。一方、聞き手にとっての間は、話し手の意図を理解したり、思いや考えの大事な個所を感じ取ったり、自分の理解を深める時間となる。

新年を迎え、なにげなく感じている「間」というものを今一度見つめ直し、多くの人々と関わるができることに感謝しながら教育活動に尽力したいと思います。